

劇評

ラビア・ムルエ連続上演『33rpm と数秒間』

作・演出：リナ・サーネー、ラビア・ムルエ [レバノン]

虚構か現実か？ パフォーマンスなのか、インスタレーションなのか、演劇なのか？ 『33rpm と数秒間』は、政治やメディア社会に鋭い問いを投げかける。驚くべき、またとても興味深い作品である。いわゆる演劇好きだけでなく、幅広い人に薦めたい。

Laura Plas, Les Trois Coups.com (フランス)

『33rpm と数秒間』は、21 世紀に出現した、多元メディアによる電子的な現代的アイデンティティのあり方を、思慮深く、かつエンターテインメント性を持って批評する。

Jim Quilty, The Daily Star (レバノン)